

駒澤大学 vs 東海大学

4月7日(日)
11:30K.O.
青学大G

1990年以来、実に22年ぶりという2部リーグを戦った昨季の駒大は、昇格圏と勝点10差の4位に終わった。1部リーグ常連チームだったとはいえ、秋田浩一監督も決して楽な戦いを予想していたわけではなく、むしろ「前期をいかに我慢し、後期に臨めるか」と話していた前期を2敗の3位で折り返したところまでは想定内の成績だっただろう。しかし、計算外だったのは結果6敗に終わった後期だ。下位チーム相手の取りこぼしと、上位チームとの大事なゲームに勝ち切れない勝負弱さが目立ってしまった。悔しさが募った分、今季に賭ける想いは相当のものがあるはず。今季のスローガンは「1部復帰・駒大復活」。攻撃の中心であった湯澤洋介(栃木)は抜けたが、MF 碓井鉄平主将(4年)をはじめ攻撃陣は駒もそろっている。駒大らしき復活のシーズンとなるか。

対する東海大は昨季、敗戦数リーグ最多タイの12敗を喫して9位に終わった。1・2部を1年ごとに行き来し、2部では常に上位を争ってきたが、降格から3年目の2部リーグを戦った昨季は6得点しかかと思えば7失点を喫するという出入りの激しい試合を繰り返し、降格の危機さえ頭をよぎる1年となってしまった。

今季は、昨季の不振を振り払うべく内山秀一監督の

もと元Jリーガーの後藤太郎コーチを中心に新たな戦いを挑む。ベースとなる守備面はDF 小山真司主将(4年)が指揮を執りつつ、昨季、負傷による戦線離脱などで出場13試合にとどまりながら14得点をたたき出したFW 峯勇斗(3年)をはじめ、MF 塩田光(4年)、MF 湯川純平(3年)ら攻撃陣で技術を持つ選手が残っており、いかに攻撃的なサッカーを見せてくるか楽しみだ。

<昨年の対戦>前期/駒大1-0東海大、後期/駒大1-0東海大

駒大		東海大	
3. 田中	19. 溝口	9. 大村	5. 元田
5. 伊藤	9. 小牟田	4. 湯川	6. 永野
6. 若山		11. 峯	3. 小山
7. 碓井	10. 山本	8. 水野	1. 島田
4. 平尾	11. 小牧	10. 廣瀬	20. 赤木
2. 友廣		14. 塩田	

法政大学 vs 青山学院大学

4月7日(日)
13:50K.O.
青学大G

1部からの降格3年目のシーズンを迎えることとなった法大。一昨年、昨年は、2部リーグにおいては屈指の個人能力を持つ選手をそろえながらも4位、3位に終わった。攻撃力では、一昨年の49得点に続き昨年は東洋大に続く51得点という爆発力を見せてきたが、上位チームとの接戦に勝ち切ることができず、昨季も3位に終わったとはいえ実質的に“昇格争い”に参戦したとは言えない苦しいシーズンであった。

今季は「ReBorn」をスローガンに掲げる。昇格の望みがついた昨季終盤、スタメンを3年生以下に切り替える決断を下してまでチームの再構築に向けた意気込みを見せてきただけに、前期開幕からフルパワーで臨んでくるだろう。昨季終盤に見せた“走るサッカー”を展開しつつ、得点王に輝いたFW 松本大輝(4年)を中心とした攻撃力を発揮し、昇格への“本気度”を示したい。

一方の青学大も、昨季は予想外の結果に終わったチームの一つだ。1部昇格を果たしながら1年で降格を余儀なくされたうえ、昨季は2年ぶりの2部で10位という屈辱を味わった。観る人の心を動かすサッカーを標榜し、アグレッシブな試合展開を目指したものの、攻め込みながらも決定力に欠け、カウンターから失点する悪循環に

陥り、失点数はなんとリーグワースト2位の45。前期の法大戦の6失点をはじめ5失点が2試合あるなど、守備面での淡白さが目立ってしまった。今季も、攻撃面の良さを発揮するのが青学サッカーの魅力ではあるが、より長くイニシアチブを握り守備のリスクを低減したい。MF 木澤純平(4年)、MF 後藤拓斗(3年)のゲームメイクとFW 関谷祐(3年)の決定力に期待したい。

<昨年の対戦>前期/法大6-0青学大、後期/法大1-1青学大

法大		青学大	
3. 岡	16. 松田	11. 石沢	3. 早田
13. 木村	10. 上星	18. 関谷	15. 水島
17. 森保		8. 後藤	
21. 田村	6. 星	10. 木澤	1. 橋本
4. 樋川	9. 深町	9. 高橋	4. 中村
8. 大野	14. 松本	7. 荒木	20. 服部

第1節の予想布陣はリーグパンフレットを参考に作成しています

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2013-NO.1

編集：五味垂矢子 印刷：関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ



混戦必至の2部リーグが開幕!

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦・2部リーグが開幕する。昨季は圧倒的な強さを見せた東洋大と安定感を保った桐蔭大がともに初の1部昇格を果たしたが、一方3位以下は大激戦で、どこが“降格”してもおかしくない状況であった。今季は1部から6年ぶりに神大が、そして1部で結果を出すことができなかった東学大が1年で降格してきた。都県リーグからは、3年ぶりの復帰となる東農大と、3年連続埼玉県からの昇格であり関東リーグ初お目見えとなる東国大を迎え、12チームによる1部昇格(上位2チーム)を賭けた熱い戦いがスタートする(下位2チームは都

県に自動降格)。毎年、4チームの顔ぶれが変わる2部リーグではあるが、近年の様相を見ていると12チームの差は確実に縮まっている。1部から降格してきた2チームはもちろん、昨季は実力を発揮し切れずに昇格を逃した駒大、法大らは巻き返しを図ってくるだろう。昇格組にしても、降格から2年でチームづくりを一から見直してきた東農大、躍進の続く埼玉勢の東国大という侮れない2チームだ。とにかく、2部リーグの醍醐味は昇格争いと残留争いがともにあること。各チームが実力を発揮し、レベルの高い争いとなることを期待したい。

JR東日本カップ2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 日程表

節	日付	会場	対戦	時間	節	日付	会場	対戦	時間
1	4月6日(日)	BMWス	神大 vs 東農大	11:30	6	5月5日(日・祝)	フクアリ	関学大 vs 東国大	11:30
		川口	関学大 vs 平国大	11:30			荻野	駒大 vs 拓大	11:30
		朝鮮大G	拓大 vs 朝鮮大	11:30			たつのこ	法大 vs 東農大	11:30
		東学大	東学大 vs 東国大	13:50				東学大 vs 平国大	13:50
		青学大G	駒大 vs 東海大	11:30				神大 vs 青学大	11:30
			法大 vs 青学大	13:50		5月6日(月)	三ツ沢	神大 vs 青学大	11:30
						たつのこ	朝鮮大 vs 東海大	11:30	
2	4月13日(土)	ニッパツ	拓大 vs 平国大	11:30	7	5月11日(土)	味スタ西	東学大 vs 拓大	11:30
			神大 vs 東国大	13:50			青学大	青学大 vs 東農大	11:30
		青学大G	関学大 vs 朝鮮大	11:30				駒大 vs 平国大	11:30
			駒大 vs 青学大	13:50				神大 vs 法大	13:50
			法大 vs 東海大	11:30				朝鮮大 vs 東国大	11:30
	4月14日(日)	法大G	東学大 vs 東農大	13:50		5月12日(日)	法大G	関学大 vs 東海大	13:50
3	4月20日(土)	駒陸	駒大 vs 東国大	11:30	8	5月19日(日)	朝鮮大G	朝鮮大 vs 東農大	11:30
		江戸陸	朝鮮大 vs 青学大	11:30			青学大	東学大 vs 駒大	13:50
		荻野	神大 vs 平国大	11:30				平国大 vs 青学大	11:30
			東学大 vs 東海大	13:50				神大 vs 拓大	13:50
			4月21日(日)	法大G			関学大 vs 東農大	11:30	
			法大 vs 拓大	13:50			法大 vs 関学大	13:50	
4	4月27日(土)	法大G	拓大 vs 東農大	11:30	9	5月25日(土)	青学大G	拓大 vs 青学大	11:30
			法大 vs 東国大	13:50				東学大 vs 関学大	13:50
		BMWス	駒大 vs 関学大	11:30				平国大 vs 東国大	11:30
		三ツ沢	神大 vs 朝鮮大	11:30				法大 vs 朝鮮大	13:50
		荻野	東海大 vs 平国大	11:30				5月26日(日)	朝鮮大G
	4月28日(日)	麻溝	東学大 vs 青学大	11:30		東海大	神大 vs 駒大	13:50	
			関学大 vs 青学大	11:30					
5	5月3日(金・祝)	味フィ西	関学大 vs 青学大	11:30					
		江戸陸	東学大 vs 朝鮮大	11:30					
		保土ヶ谷	駒大 vs 東農大	11:30					
			法大 vs 平国大	13:50					
			千葉東総	拓大 vs 東国大	11:30				
	5月4日(土・祝)	荻野	神大 vs 東海大	11:30					

体育会学生のための



あなたの就活を、専任アドバイザーがマンツーマンでサポート。 <http://job.rikunabi.com/agent/athlete/info02/>

神奈川大学 vs 東京農業大学

4月7日(日)
11:30K.O.
BMWス

昨季、得失点差で1部リーグ最下位に終わった神大。2005年から12チームとなった2部リーグを3年という関東昇格からの最速記録で駆け抜けていったチームが、5年間の1部での経験を経て再び2部で戦う。関東リーグ昇格時より堅守・速攻を最大の武器として戦ってきた神大は、当初の2部での3年間はもちろん1部でも“降格の危機”を味わうことがほとんどなかった。昨季は高峯弘樹新監督を迎えたこともあり、より攻撃的なサッカーを目指す新たな挑戦を試みたが、最終的にはリーグワーストの54失点と、定評のあった守備が崩壊。思わぬ失点からチームの歯車が狂い始め、守備面の再構築に取り組んでも修正しきれないまま悪循環に陥ってしまった。今季は巻き返しに向けて再スタートの年となるが、6年ぶりの2部ということで既に選手たちのプライドは1部のもの。勝利への強い執念を見せてくるはずだ。

対する東農大は、3年ぶりの関東復帰。2010年のシーズンに2部最下位となり、混戦の東京都リーグでは初年度で得失点差により4位に終わり、昨季は2位で関東大会出場を果たし、参入戦ではリーグ戦で敗れた明学大を下して関東リーグ昇格を決めた。関東リーグを離れた2年間、チームとして取り組む姿勢の厳しさを見直し、

また、埴田健ヘッドコーチを迎え、運動量を高めながら頭を使うサッカーを追及してきた。先に失点することで“負の連鎖”に陥ってしまった3年前の経験を知る唯一の学年が4年生に残る。MF中垣内優太主将(4年)は、「格上の相手とやるので失点するのは仕方ないが、90分を通して我慢して戦えばチャンスはある」と話す。2年間、苦しみながら取り組んできた経験を自信として戦えば、結果もついてくるだろう。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

神大		東農大	
3. 高木		3. 中西	
10. 伊東		18. 今野	
4. 向山	11. 星	9. 相川	15. 小田原
7. 長野		6. 中垣内	
1. 松田		30. 矢口	
6. 秋山		4. 内藤	
5. 杉山	9. 郡司	14. 石川	5. 櫻岡
8. 須郷		11. 井上	
2. 柿崎		2. 大野	

拓殖大学 vs 朝鮮大学校

4月7日(日)
11:30K.O.
朝鮮大G

昨季は苦しいシーズンとなった拓大。最終的な結果は6位であったが、前期を11位という降格圏で折り返すなど、降格の危機感を抱えての戦いを強いられた。メンバーを頻繁に入れ替えても結果につながらず、一旦は1年生を中心に試合に臨むなど試行錯誤を繰り返したが、後期に入って守備面が少しずつ安定してくると、攻撃陣の特徴も発揮されるようになった。今季は巻き返しのシーズン。昨季、はからずも数多くの選手を試合に出場させたその経験が、今季に良い影響をもたらすことを期待したい。拓大の魅力といえば、やはりその攻撃力だ。一方で、あっさり失点してしまう淡白さが昨季の不振の要因ただけに、その点がいかに改善されているかが鍵だが、FW内野裕太(4年)、MF西岡梧郎(3年)といったパワーのあるストライカーの活躍に注目したい。

一方の朝鮮大も、昨季は非常に苦しんだシーズンであった。結果的には7位だったが、後期は大混戦の残留争いに巻き込まれ、最終節まで降格回避に奔走することとなった(最終節の試合前に他チームの結果により残留決定)。苦しんだ最大の要因は、51失点というリーグワーストの失点数。敗戦数のうち2/3が3失点以上で、失点を恐れるあまりに全体が引き過ぎて攻撃を組み立てられ

ないという、朝鮮大らしくない消極的な試合運びが、結果的には自滅を招いてしまったと言える。関東リーグ昇格後5年目で最も苦しんだシーズンを凌ぎ、今季は金載東新監督を迎えた。メンバーも、特に攻撃陣では中心となっていた選手が抜けて顔ぶれが一新。公式戦経験が少なく不安な面もあるが、一方で怖いもの知らずの思い切りの良いプレーが見せられるか、新たなスタートだ。

<昨年の対戦>前期/拓大3-4朝鮮大、後期/拓大1-2朝鮮大

拓大		朝鮮大	
13. 大槻		24. 鄭壯輝	
15. 長沢		11. 金大伸	
4. 菊野		8. 金健志	3. 李教俊
7. 川崎		14. 朴利基	
1. 大坪		1. 李在根	
11. 内野		6. 任良太	
9. 西岡		10. 周祐慶	22. 慎鏞紀
6. 小野		20. 金慎也	
5. 金子		7. 尹昌洙	
20. 片			
2. 西本			

関東学院大学 vs 平成国際大学

4月7日(日)
11:30K.O.
川口

昨季、3位と勝点1差の5位に終わった関学大。しかし、前期最下位からの残留という関東リーグ初挑戦のシーズンを経て、3位、5位と着実に結果を残している。関東昇格の感動を知る学年が去り、本格的に関東リーグの常連校として1部昇格も目指したいところだ。昨季は5位ではあったが、実情を見れば“世代交代”を視野に入れた切り替えのシーズンだったとも言える。それでも大崩れのない安定した力を発揮したが、欲を言えば“勝利への執念”を見せ切れなかった試合も多かった。少しずつ試合経験を積んできたとはいえ、今季は軸となる選手の顔ぶれがガラッと変わった。エース不在に見える分、どこからでも攻撃できる、相手からすれば嫌なチームと言えるかもしれない。「取れるところでしっかり点を取り、失点は粘り強く防ぎたい」(GK守山健二主将・4年)。

一方の平国大は昨季、関東リーグ初挑戦のシーズンを8位で終えた。開幕6連敗と苦しんだものの、夏には初の総理大臣杯出場、秋には2度目の天皇杯出場を果たすなど、大躍進を見せたシーズンであった。残留争いが大混戦となっただけに、結果的には最終節のロスタイムでの得点で残留を勝ち取った形ではあったが、関東昇格からの徹底したチームマネジメントと西川誠太監督の固

い信念が、この結果を手繰り寄せたと言えるだろう。また、守備の柱であるDF須藤貴郁(4年)が戦線離脱しながらの結果は、まさに全員サッカーが実を結んだもの。中でも、チームの中心であった荻原健太(ソニー仙台)の貢献は大きく、彼の役割をチーム全体でどうカバーし、今季のさらなる成長につなげてくるか。多くの選手が昨季の試合出場経験を積んでおり、注目のチームだ。

<昨年の対戦>前期/関学大1-0平国大、後期/関学大1-2平国大

関学大		平国大	
2. 高橋		11. 千葉	
23. 長谷川		12. 猪瀬	
3. 土館	10. 橋村	5. 鎌田	
16. 村田		7. 佐藤	
1. 守山	7. 太田	10. 柏俣	1. 小池
15. 廣瀬	18. 中村	18. 星子	
8. 山本		6. 本田	
6. 木村		2. 須藤	
		9. 堀越	
		4. 大野	

東京学芸大学 vs 東京国際大学

4月7日(日)
13:50K.O.
朝鮮大G

昨季、4年ぶりに1部リーグで戦った東学大だったが、前回昇格時と異なり、今回は定着が叶わず1年でまさかの2部降格となってしまった。最終順位は11位だったが、3試合を残しての降格決定は大きな屈辱を味わうことになっただろう。降格決定後の3試合は負けなしであり、14敗のうち10試合が1点差での敗戦と大崩れはなかっただけに、悔やまれるシーズンであったと言える。それでも、無失点試合が後期のわずか1試合と、1部リーグのチームの攻撃力を抑えることがいかに難しいかを見せつけられてしまった。今季の目標は、何をにおいても1年での1部復帰だ。前回の降格時も、攻め込みながら勝ち切れない試合が続く3シーズンを過ごしてしまった。今季は、MF茶島雄介(4年)やFW岡卓磨・山崎直之(いずれも4年)らのタレントも残っている。2年前よりも、どう成長した戦いを見せてくれるだろうか。

対する東国大は、関東リーグ初お目見えとなる若いチームだ。前田秀樹監督を招聘し、強化を始めてわずか5年。しかし、274名の部員と人工芝サッカー場3面などを備える充実した環境のもと、2度目の参入戦挑戦で埼玉県の先輩である尚美大を下し昇格を決めた。なお、埼玉県からは城西大、平国大に続く3年連続の関東リーグ

昇格である。強化開始からしばらくは、「しっかり守ってカウンター、それしかやらないチームだった」(前田監督)。最初はそれしかできなかったという事情もあった。しかし、初の参入戦での敗退を受け、先を見越してサッカーを変えてきた昨季はすぐにその結果を出し、主体的に攻撃を仕掛けるシーンが増えた。初の関東リーグで萎縮しないことが重要だが、天皇杯出場経験などもあり、どんなサッカーを見せてくれるか期待感も大きい。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東学大		東国大	
5. 廣木		2. 伊東	
8. 佐々木		11. 高橋	
4. 脇本	7. 山崎	3. 阿部	
15. 菅		8. 清水	
1. 谷口		12. 水野	21. 今野
10. 茶島		9. 福島	
6. 久司	9. 岡	10. 若井	
14. 佐藤		5. 川島	
2. 大里		13. 崔	
		6. 鹿糠	